

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		一般社団法人二三楽学喜サポートanemonemihama		公表日		2026年5月30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・ 運営・ 体制	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	4	0	・事務所で教材の使い方を伺え、学びになっています。課題の似ている子にも作成したいと思います。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	・自分自身は負担なく行えているが、他訪問員の負担が大きくないか気になる時がある。 ・一人あたりの人数が多い、支援に対する振り返りや見直しの時間が少ない		
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	・意識が十分ではないので、アセスメントや支援計画書の見直し、事業所内での勉強会を通して意識していく。	・疑問や不安を感じた時はミーティングにて話し合いを行い、体制を整えている。今後も振り返り内容を整理し、共有しやすい形式や方法を工夫して業務改善につなげていきたい。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・ミーティング等で共通理解を行い、業務内容の見直しをしている。	・保護者の意見を共有し、改善が必要な場合は話し合う機会を設けている。改善後の評価を行いながら、支援の質の向上へつなげていくようにしていきたい。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・月一のミーティングでスケジュールの打ち合わせや、担当児童についての相談ができ貴重な時間になっています。	・ミーティングを通して確認していき、業務改善につながるようにシステム等の調整もなっている。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		・実際の活用については十分とは言えず、外部評価につながるよう実施方法を検討し、業務改善につながるようにしていくシステムを作る。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0		・研修案内や情報共有する機会の中で、出来るだけ研修を受けてもらうように調整を図っている。今後も研修で受けた内容を共有し、支援の質の向上に活かしていきたい。	
	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	1	・保護者への連絡(LINEや電話)、必要に応じての面談でニーズの聞き取り。授業参観や、帰りのお迎え時間に訪問時間を合わせて保護者と会う時間を設定。	・こまめに保護者と会う機会を作り、ニーズを確認し、個別支援計画書に反映できるようにしている。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・ミーティング等で事例検討会を行い確認している。	職員間で情報を共有し、子どもの最善の利益につながるように、子どももなかなか支援を継続できるようにしていく。	
適切 な 支 援 の 提 供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	1	・全訪問先とはまだ取り組んでいないが、引き継ぎ書類や訪問報告書で確認している。	・出来るだけコミュニケーションを取りながら、訪問先に意向を踏まえ、より良い支援につながるように連携していく。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	1	・職員間で更に共有していきたい。	・職員間で共有する機会をさらに設け、支援の方向性を客観的に評価、修正を行いながら支援の見直しを含め、計画に沿った支援となっているかをお互いで確認しながら進めていく。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	・行動観察に加え、フォーマルな評価も学び、評価の幅を広げていきたいです。	・行動観察を行いながら、多面的に子どもの状況を確認する。必要な評価を行うための評価に関する学習を取り入れ、客観的なアセスメントを使用して効果判定につなげていきたい。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	・保育所等訪問の連絡会にて確認しましたが、日々の支援の中で確認していきたいと思えます。	「つなぐ」連絡会で確認しながら、より具体的な支援が出来る様に事例検討会等を通して具体的な支援につながるようになっていきたい。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0		共有する機会を増やしていき、全職員で計画に沿った支援が行えるようにしていく。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	0	4	・毎支援行っている訳ではない ・毎回ではなく必要に応じて確認し支援に入っている。訪問後に内容を相談することが多い。	・保護者へのLINE等はスタッフ間で閲覧できるようにしているため、共有する機会を設定している。必要に応じて連携を行ったり、役割分担を今後も継続していく。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	4	・毎支援行っている訳ではない ・担当性に任せてしまっている。	・業務状況により、当日中の振り返り等は難しい為、必要に応じてミーティングやスタッフ間のLINE等で確認している。振り返りのタイミングやZOOM等を利用して共有する機会を作っていく。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4	0		
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4	0		・記録を取り、モニタリング会議や振り返りの検証を行う際に活用している。記録の質の向上のために記録内容の項目についても再度見直し、より振り返りが行いやすいようにスタッフ間で調整していく。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0		・保護者や訪問先に意向を確認しながら支援内容や計画の見直しを行い、状況に応じて必要性を検討している。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・情報共通し、役割分担して対応している	・子どもの状況や保護者。訪問先の状況を計画相談員と共有しながら、役割分担して対応を今後も計測していく。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	・教育委員会との連携を行なっている。	・教育委員会と連携したり、地域の不登校支援事業所と連携して、子どもが安心安全な場所でも活動できるように連携を回り、情報共有する機会や地域の会議等に参加して情報収集を行っている。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	・通っているデイとの連携も図れるようにしたい。(電話やZoomの活用) ・移行資料の作成、申し送り、関係機関と情報共通、進路先の見学の促しなども声かけている。	・事前に打ち合わせや移行会議等を開催し、スムーズな学校生活につなげられるようにしている。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	0	・外部研修の機会はかなり多くいただいていると思う	・出来るだけスタッフが希望した研修は受けようようにしている。土日の研修も業務として受講してもらうように配慮している。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1	・地域にも目を向けて子育て会議の情報も得たい。	・自立支援協議会の子ども部会に入り、地域の情報収集を行い、子どもに必要な支援の開発や支援方法について考えていこうに会議に参加していく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・LINEやお電話、必要に応じて対面での面談を持っている。	日頃からLINEや電話、対面での面談を行い、発達状況や課題について情報共有する機会を継続していく。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2	・これから取り組んでいく話し合いをしている ・内容を工夫しながら言葉についての研修も行っていきたい。 ・保護者会を開催した。	・保護者会を設定し、ミニ講義や交流会等開催し、保護者間の交流を進めていきたい。子育てが孤立化しないように仲間がいることを意識して人と人をつなげていく。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0		
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	0	・新年度のあいさつ、事業の説明があることで受け入れがスムーズ(フィードバックの時間が持ちやすい、日程が組みやすいなど)	・訪問先に訪問する際にスムーズに入る事ができ、連携がしやすくなっているので、継続して訪問の目的を伝えて行く。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0		・子どもと保護者の意向を尊重し、子どもや家族の意向を確認する機会を継続して設定しながら意思を尊重して関わっていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	0		・支援の報告を通して、支援の見直しや評価を行い、訪問支援の計画について同意を得る様に心掛けている。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	0	・LINEや面談を行っている。	・LINEや面談を通して、丁寧に聞き取り、悩みや相談に適切に対応できるように心がけている。できるだけ明日から出来る具体的な事を伝えている。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	・今年保護者会を開催	・放課後等デイサービスと連携しながら、保護者会を開催し、事業所間の交流やきょうだい児の交流につながるよう機会を設けるようにする。
	33	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		・相談や申し入れがあった場合にはすぐに対応できるように体制を整える様にしている。今後も適切な対応が出来る様にしていきたい。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	3	・定期的な発行はないが、保護者会の開催を重ねて保護者同士の交流を持ちたい。	・今後、保護者会の開催を重ね、保護者間の交流を持つ機会を設けたい。 ・SNSやHPの通信について今後検討していく。

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・写真や動画を撮る前に先生へ確認してから行っている。	個人情報の取り扱いについては十分に配慮している。管理を徹底して行っていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0		・保護者の都合の良い時間や曜日进行调整して出来るだけ意思疎通を図るようにし、必要に応じて情報提供を行っている。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	0	・その場で教材や遊びが提案する際に伝わりやすいよう、写真など材料を持っておきたい。	・支援グッズや教材等、訪問先に提案できるように、一覧表やファイルなどを作成してすぐに対応できるように環境調整を行っていく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4	0		・支援後に時間を配慮しながら振り返りを行い、次回の訪問につながるよう情報共有を行っている。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4	0		・LINEや電話、面談等を通して、支援後の報告と課題の共有、関わり方の方法等を情報交換を行い、コミュニケーションを取るよう心がけている。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		・個人情報の取り扱いについては十分に配慮している。管理を徹底して行っていく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4	0		・信頼関係を築きながら、分かりやすい言葉で専門的な助言を行うよう心がけている。 ・今後もより良い関係性を取っていきたい。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2	・発生を想定した訓練も行いたい。地震後の連絡を心掛けたい。 ・法人研修や訪問先の訓練に参加している。	・発生を想定した訓練を行い、実際に起こった時にコミュニケーションにつながるようしていく。連絡方法や対応について具体的に見直していきたい。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	1	研修不足等がある。	・法人や放課後等デイサービス事業所とも連携しながら、年間計画に基づいて研修、訓練が実施し、見直ししながら質の向上へつなげていく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ミーティングで確認している。	・ミーティングを通して確認しながら、再発防止にならないための分析や対応法について検討し、改善方法を積み重ねていきたい。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0		・虐待防止については定期的に勉強会を開催しながら、適切な対応、職員の質の向上へ繋がるようにしていく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	0	担当児童は対象外	

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 3月23日		～ 2026年 4月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	2026年 3月23日		～ 2026年 4月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 3月 9日		～ 2026年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	57名	(回答者数) 57名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉と多職種のスタッフの構成であるため、多面的に子どものアセスメント、支援が出来ます。	作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士などの多職種の専門スタッフが連携し、それぞれの専門的な視点を活かしながら、多面的なアセスメントを行っている。 利用者一人ひとりの特性や困り感を多角的に捉えることで、発達面・生活面・心理面・社会面など幅広い視点から課題整理を行い、本人や家族のニーズに応じた具体的な支援へつなげられるよう努めている。 また、多職種間で情報共有を行いながら支援方針を検討することで、一貫性のある支援体制づくりを大切にしている。	
2	・法人内に児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、就労支援事業所、相談支援事業所があることで、乳幼児期から成人期までを見据えた切れ目のない支援体制を構築できている点である。 ・各事業所が連携することで、子どもの発達段階やライフステージに応じた課題を共有し、必要な支援を段階的に積み重ねることが出来る。特に、就労支援事業所と連携することで、「将来の就労に向けて幼少期からどのような力を育てていく必要があるか」を具体的に把握しながら支援を行えることが大きな特徴である。	・年齢や発達段階に応じて必要なスキルを明確にし、基礎的な力を積み上げながら次のステップへつなげる“ピラミッド型”の支援体制を整えている。また、現状の課題だけでなく、将来必要となる力を見据えて逆算的に支援内容を検討する「トップダウン」と、日々の積み重ねを大切にする「ボトムアップ」の両面から支援を行っている。 ・相談支援事業所との連携により、本人・家族の困り感やニーズを継続的に把握し、関係機関との情報共有や支援調整を行うことで、一貫性のある支援につなげている。	
3	・利用者・家族・訪問先との連携や調整を丁寧に行い、一人ひとりの発達段階や生活状況、ニーズに応じた支援を心掛けている。	多職種の専門性を活かしながら、環境調整や教材・教具の提案を行っている。支援方法を伝える際には、専門用語をできるだけ使わず、具体的にわかりやすい説明を意識し、家庭や園・学校などの現場で取り入れやすい実践的な支援につなげるよう努めている。 さらに、利用者本人だけでなく、家族や関係機関が安心して継続的に支援へ取り組めるよう、共通理解を大切にしながら連携を図っている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する事が不十分で訪問員の主観的な視点に任せている事がある。</p>	<p>・専門性を生かした支援を行なえているが、本人の主観的な評価になっている。 ・子どもの行動観察をするうえで客観的なツールをスタッフ間で何が必要なのかを検討する時間が設定できていない。</p>	<p>① 客観的なアセスメント視点の導入 日々の行動観察だけでなく、標準化されたアセスメントツールやチェックリストを活用し、子どもの適応行動や特性を客観的に把握できる仕組みづくりを行っていく。 ② 行動観察の視点を統一するための職員間協議 スタッフ間で「どのような視点で子どもを観察するか」「どのような情報を共有する必要があるか」を話し合う時間を定期的に設定していく。 短時間でもケース検討や振り返りの機会を設けることで、支援の方向性や評価基準を整理しやすくなり、職員間の共通理解を深めていく。 ③ 記録様式や共有方法の整理 支援記録において、「主観的な感想」だけでなく、「事実ベース」で記録できる様式へ見直しを行う。 例えば、「落ち着いていた」ではなく、「10分間着席し課題に取り組めた」など、具体的な行動として記録することで、誰が見ても同じイメージを持ちやすくなるようにしていく。 ④ 専門性を共有し合う学びの機会づくり</p>
2	<p>職員間での支援前の情報共有やチームで連携して支援を行うための共有する見回数や時間が少ない。</p>	<p>常勤の職員は持ち件数が多く、訪問回数も多く、他業務と兼任しているスタッフ間でのスケジュール調整が難しく、ミーティングや共有する時間が少ない。</p>	<p>各職員の専門性や経験を個人の力量だけに留めず、ミニ研修や事例共有を通してチーム全体で学び合う機会を増やしていく。 ⑤ 支援の根拠を明確にしたチーム支援の強化 「なぜこの支援を行うのか」「どのような課題に対して行っているのか」を職員間で共有し、根拠を明確にした支援を積み重ねていく。 共通理解を持った上で支援を行うことで、子どもにとって一貫性のある関わりにつながり、安心して過ごせる環境づくりにもつなげていく。</p>
3	<p>保護者会の開催回数が少ない</p>	<p>1回は開催できたが、周知する時間が短く保護者の参加者が少なかった。</p>	<p>・アンケートを実施し、参加しやすい曜日や時間帯、聴きたい内容や開催方法（対面・オンライン）のニーズを確認する。 ・年間計画の中に予定を早めに提示してテーマ等を明確にして、参加の動機へ繋がるようにする。 ・参加出来なかった家庭へのフォローを考え、さらに、スタッフ間の負担軽減を減らす仕組みづくりも考えていく。</p>

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 一般社団法人一二三楽学喜サポートanomonemihama

公表日 2026年 5月 30日

利用児童数 2026年3月 31日 (68名)

回収数 29名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	19	0	0	11		子どもに合わせた教材、自教具の提案や使い方を説明や使用を行いながら、「わからない」という回答に対して課題として捉え、教具教材の活用や提案を丁寧に行っていく。SNSやグループLINE等を使用しながら周知していきけるようにしていく。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	21	0	0	8		プライバシーに配慮した環境調整を意識して面談等を行っていくようにします。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	27	0	0	1		事業の目的について丁寧に説明を行い、いつでも確認できる体制を維持出来る様にします。
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	25	2	1	0	・連絡と報告が毎回あります。	「いいえ」と「どちらともいいない」という回答に対して、丁寧に説明を行い、確認していく体制を調整していきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	27	0	2	0		訪問回数が保護者の要望に対して少ない回数であったことが「いいえ」の回答になっていると思われるので体制について見直していきます。
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	0	0	0	・親としては安心してしています。	専門性について安心してという評価を頂いたことに感謝し、研修や学習、自己研鑽を含めて知識、技術を高めていけるように努めたいと思います。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	0	1	0	・理解しやすい内容になっていた。	子どもと保護者の声を聴き、多面的な視点で評価を行い、誰もが分かりやすく、具体的な計画書を継続して作成していきます。
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	25	1	0	3	・見えない学校での生活を評価していただけでとても助かっています。	保護者と学校との仲介的な役割を行い、保護者と訪問先の担任の想いを汲み取り支援を行っていきます。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	0	0	3		ガイドラインに沿って、具体的な支援になっているのかを定期的に見直していきます。
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	3	0	1		モニタリングや面談等を通して支援の見直し、改善点などに対して修正を行っていく。
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	28	0	1	0		訪問先施設と連携し、施設に配慮した支援を継続していく。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26	1	1	1	・丁寧な説明でした。	「丁寧な説明でした」という回答に対して継続して分かりやすい説明を心掛けていきたいと思っています。
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	1	1	1		「いいえ」、「どちらともいいない」回答があるので、不十分な点があると思われるので、丁寧に説明していく事を心掛けていきたいと思っています。

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	25	2	2	1	・参加案内がきており今回は都合上参加できなかったため、次回は参加したいです。	今年度実施したのですが、周知の時期が短かったため、参加人数が少なかったことを見直し、早めの案内と参加しやすい日時やオンライン等も利用して参加できる保護者を増やしていきます。
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていますか。	27	2	0	0	・学校の先生と話を共有する機会を設けてくれている	保護者と学校との仲介のなかで、意見のすり合わせが出来る機会を設定していくようにこれまで同様に継続していきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	1	2	0	・困った事を相談すると、的確なアドバイスがあるのでとても助かっています。	LINEや訪問報告を通して、すぐに困り感や不安な事に対応できるようにこれまでのように継続していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	1	1	0	・成長に必要な教材作成してくれたり、考えてくれたりしてます。	子どもの発達段階に合わせた教材等の作成、紹介の継続を行っています。
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	3	1	1		
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	2	0	1		「どちらともいえない」、「わからない」という回答を改善点として保護者と子どもの意思疎通や情報伝達について対応できる体制を整えていきます。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	28	0	0	1	・専門性があり勉強になります。	訪問先からの相談に適切に応じ、助言と支援を継続します。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	27	1	0	1		訪問後に振り返りを行い、訪問先と内容を共有することは意識して行っています。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	28	0	0	1		安心感につながるように訪問報告を共有するように継続して努めていきます。
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	22	3	0	5		ホームページやLINE等を通して情報を発信できるように継続して行っています。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	0	0	2		規定に基づいて、個人情報保護を徹底します。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	19	2	0	8		「わからない」という回答が多かったことを改善点として、周知出来る様に保護者会を通して行っています。
満足度	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	1	0	6		安心、安全の体制であることを保護者に説明する機会を設定していきます。
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	24	1	4	0	・好きだと思います。 ・好きな職員と会えるのを楽しみにしている	嬉しい回答がありますので、常にこどもの想いを大切にしながら安心、安全に支援を受けてもらえるように継続して関わっていきます。
	28	事業所の支援に満足していますか。	27	1	0	0	・関わり方等アドバイスをいただけて、色々相談にのっていただけてます。 ・支援が受けられて本当に良かったです。	「支援を受けて良かった」、「相談にのって頂いています」という声を励みにし、支援の質の向上に努めていきます。

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日 2026年 5月 30日

一般社団法人一二三楽学喜サポートanemonemihama

利用児童数 2026年3月31日 回収数 57件

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	50	6	1	・支援級の様子やこれまでの様子の情報共有が出来て良かった、 ・発達や発育を促すための助言でとても参考になります。	なるべく専門用語を使わないで、分かりやすく、具体的で取り入れやすい方法を提案しているように伝えています。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	47	9	1	・専門的視点での助言や器具の提供や環境構成の工夫など実勢につながる助言でとても勉強になります。	「どちらともいえない」という意見を改善点として積極的に知識や技術、情報提供を行います。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれますか。	52	5	0	・日々関わる職員の迷いや困りごとを相談しやすい雰囲気です。	「相談しやすい雰囲気です」という意見を励みに、すぐにできる困り事に対して対応できるようにスキルと知識をつけていく努力をしています。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	44	13	0	・保護者との橋渡しになった。	「どちらともいえない」回答が多いため、課題や困りごとの整理を行える機会を訪問先の状況に配慮しながら開催していきます。
5	事業所からの支援に満足していますか。	49	6	2	・子どもの育ちを支えていく上で専門的視点からの助言をありがとうございます。 ・訪問が多かったので、訪問回数を減らせられたら助かる。 ・急な訪問日程を入れるのは、なるべく避けていただきたい。	「訪問回数が多かった」、「急な訪問日程を入れるのをなるべく避けていただきたい」という意見を受け止め、早めに日程調整が出来る様にする。 訪問回数に関してはモニタリング会議等を通して保護者・訪問先・計画相談員との情報交換しながら話し合いで調整できるようにしていきます。
その他のご意見					ご意見を踏まえた対応	
<ul style="list-style-type: none"> ・訪問が多かったので、訪問回数を減らされたら助かる。 ・急な訪問日程を入れるのは、なるべく避けていただきたい。 					<ul style="list-style-type: none"> ・訪問回数についてはモニタリング会議等を通して、保護者、本人、計画相談員、担任のご意見を聴き、回数の検討を行っていきたく思います。 ・これまでと同様に事業所の強みである多職種で職員が構成されている点を生かし、多面的な視点から訪問先のニーズ、保護者、本人からのニーズを統合的に捉え、子どもが最善を尽くせるような支援を継続して行って行きたいと思っています。 	